

事例報告地区の受賞理由概要

〔農林水産大臣賞〕

のうじくみあいほうじん しんじょう らくしゃ
農事組合法人 新庄わいわい楽舎（福井県三方郡美浜町）

新庄地区では、中山間地域で生産条件が不利であるのに加え、獣害により耕作放棄地が拡大するなど営農継続が危ぶまれる中、現「農事組合法人 わいわい楽舎」の構成員が中心となった「有害獣対策協議会」による共同電気柵設置により獣害の低減に成功した。その後、耕作放棄地の問題解決、子どもたちの体験農業の受け入れに取り組む組織作りのため、わいわい楽舎を法人化し、地域営農の担い手として作業受託だけでなく、地区の3団体と連携し「美浜新庄観光協会」を立ち上げ、地域資源を活かした子どもたちへの農作業体験など幅広い活動を行っている。

また、耕作放棄地への牛の放牧により、地域の子もたちが牛とふれあい、米づくり体験やさつまいも栽培体験と相まって、食育、環境教育が行われている。このような将来を担う子どもたちの活動は、今後の潜在的な担い手である親世代の農業への関心醸成となっている。

これらわいわい楽舎を中心とした活動は、地域の多様な住民を巻き込んだ多角的な取組に発展し、豊かなむらづくりに大きく貢献した。その名の通りみんなで明るく、楽しく、わいわいと「むらづくり」に取り組んでいる姿は、農村地域において集落機能の低下が懸念されている現状において、地域をリードする取組のモデルとなるものである。

〔北陸農政局長賞〕

いしたにちょうないかい
石谷町内会（新潟県上越市）

「石谷町内会」は集落の過疎化や高齢化、後継者不足の問題を抱える中、集落の生活や営農活動の維持には基盤整備が必要との考えから県営ほ場整備を行うとともに、集落農業の担い手として「農事組合法人 いしたに生産組合」を設立した。生産組合は集落の水田の7割以上を耕作し、特別栽培米を生産するなど環境保全型農業に取り組んでいる。

また、法政大学の現地学習の受け入れに協力したことから交流が始まり、農業者が地域を見つめ直し、地域づくりに自信をもって交流の拡大をすすめている。さらに、大学OBや学生の家族への米の直接販売拡大により、年々農業所得が向上している。

これら農事組合法人を中心とした継続的営農体制の確立と、農業の枠にとられない大学との地域ぐるみの交流は、いわゆる「限界集落」とされる地域を活性化し、豊かなむらづくりに大きく貢献した。

のうじくみあいほうじん やぎえいのうにじゅういち
農事組合法人 矢木営農21（富山県砺波市）

矢木地区では混住化が進み、ゴミの不法投棄が増えるなど環境保全活動が低下してきたため、非農家の参加も必要と考え、「農事組合法人 矢木営農21」が中心となって、農地・水・環境保全向上対策事業等を活用し、幅広い年齢層が地域づくりの活動に参加できる体制を構築している。

また、非農家と日常的にふれあう中で、消費者の望む農業活動に積極的に取り組み、寒締めハウレンソウなどの園芸作物を本格的に導入し、地元レストランとの提携や学校給食への提供を行うなど消費者を意識した流通・販売まで視野に入れた活動に取り組んでいる。

これら環境をキーワードに非農家と農家が交流する取組としては全国でもモデル的な取組であり、豊かなむらづくりに大きく貢献した。

さわの じぎょう きょうどう くみあい
沢野ごぼう事業協同組合（石川県七尾市）

沢野地区では、過疎化・高齢化に伴い地域の将来が危ぶまれる中、江戸時代に將軍家への献上品となっていた地域特産野菜である「沢野ごぼう」を核にした村おこしに取り組むため、「沢野ごぼう事業協同組合」を設立し、沢野ごぼうのロゴマークの商標を取得する等のブランド化を推進し、地元温泉旅館との直接取引や地元企業と連携した加工品開発や販売を行っている。また、体験交流施設を拠点にグリーンツーリズムを企画し、農業体験の受け入れや農家レストランを開店し伝統料理を提供するなど創意工夫をこらした取組を行っている。

これら地区内外の知恵と力を結集した取組は、交流人口の拡大、農業所得向上等の地域活性化につながり、豊かなむらづくりに大きく貢献した。